

集落の姿を再現し、記録に残そう

～ワークショップで CityEngine の紹介をしました～

2014年4月27日、岩沼市仮設住宅東集会所で行われた復興まちづくりワークショップにおいて、筑波大学の村上先生と首都大学東京の熊倉先生から、CityEngine（シティエンジン）という最先端のソフトの紹介が行われました。

CityEngineでは、画面上でまちの姿を立体的に再現して、いろいろな角度から見る事ができます。今回の紹介では、震災前の沿岸部の6つの集落（相野釜、藤曾根、二野倉、長谷釜、蒲崎、新浜）の姿を暫定的に再現したものを、順番に見せてもらいました。それぞれの集落の姿が現れると、「〇〇さんの家はどこだろう」「もう少し右の方だ」「この道の向こうが神社だ」「自分の家の屋根の色が実際は何色だった」など、参加者のみなさんからまちの姿についてのコメントが飛び出しました。また、画面にうつるそれぞれの場所にまつわる思い出話なども出てきて、たいへん盛り上がりました。

一通り集落の姿を見たあと、このソフトをどのように活用するかについての話題になると、「集落の再現映像を公開するときのタイトルを考えたい」「それぞれの集落で、実際に道を歩いているように画面を写し、住民の誰かが自分の目線で集落を紹介するナレーションも入れて、町内案内の映像をつくりたい」といった意見が現れ、実際に集落を紹介の様子を住民の方に実演していただきました。

これから、少しずつみなさんのお話を伺いながら、CityEngineで再現した集落の姿を、実際のものに近づけていきたいと思います。集落のもとの姿と貴重な記憶を、後の世代や玉浦を訪れた人びとにも伝えられるよう、ぜひ残していきましょう。



写真：CityEngineの紹介の様子



写真：CityEngineで再現した相野釜集落



写真：町内案内ナレーションの実演の様子